



徒競走6位は、ダメですか？！

今年度の運動会は、6月3日です。今子どもたちはそこに向けて、練習に頑張っており取り組んでいるところです。当日は、応援よろしくお願ひします。今日は皆さんに、運動会の価値ということをお伝えしたいと考えています。

徒競走で6位をとった我が子に、「来年は1つでも順位を上げられるよう頑張ろうネ！！」なんて、声をかけたことはありませんか。こういう言い方、おそらく多くの方がしたことがあるだろうと思います。かく言う僕も、自分の子どもに言った記憶があります。

実は、この言い方は、徒競走の価値を「順位」という人との比較を基準とした「社会的な価値」のみで捉えてしまっている言い方です。6位はよくないものという認識なので、その上の5位や4位やそれ以上を子どもに求めています。極端に言ってしまえば、この言葉にある裏のメッセージは、「今年の君は、6位というダメな結果だったね。」ということになってしまいます。もしかしたら、「6位になった君は、ダメだね。」ととらえられかねません。

僕らは、子どもが行う様々な活動を、この何かを基準とした「社会的な価値」（徒競走でいえば順位）で捉えがちです。その活動の過程でみられる、その子の努力や頑張りやその子の伸びについては触れずに、結果として現れるものについて、「社会的な価値」で判断して、いいとか悪いとか、上手とか発信します。それがダメというわけではないのですが、そういった、「社会的な価値」のみで、子どもたちの活動を見てしまうと、未来の子どもたちに生きづらさを与えることになってしまうのではないかと危惧しています。

走るのが得意な子どもがいたとしましょう。周りから認められたり、賞賛されたりしていれば、自己肯定感も高くなっていきます。これはよいことです。でも、ここでの賞賛は、順位という「社会的価値」によっておそらくは為されています。順調に力を伸ばし、「走り」の分野で活躍できるところまでいけば、問題ありません。ところが、人と勝負して勝っていたのが中学校までで、陸上部が強い高校に進学したら、周りには自分より足の速い友だちが沢山いて・・・、となったらどうでしょうか。「順位」という価値のみで褒められ育った彼は、「順位」という尺度でしか自分を判断できません。

突きつけられるのは「ダメな自分」なのです。これは、きついことではないですか。生きづらいことではないですか。だから僕は、「社会的な価値」はもちろんですが、表に現れてこない、「努力」だとか、「粘り強さ」だとか、「力を出し切る」だとか、「諦めない気持ち」だとか、様々な価値を子どもたちに伝えておく必要があるのです。

人は人生の中で、この「社会的な価値」に基づいて、人と比べられたり、順位をつけられたりすることが沢山あります。それは仕方がないことだと思いますし、必要な面もあると思っています。でも目に見えやすいそれらの価値の中だけで生きるとしたら、それは本当につらい、生きづらい人生になってしまうと思います。だからこそ、自分で「社会的な価値」以外の価値が分かり、その価値でも自分を認められる子を育てたいと考えます。

子どもが、徒競走を走るということは、よい順位をとるのが目的ではありません。隣のこの子や。その隣のあの子よりも、走力が優れている（劣っている）ということを実証するためでももちろんありません。結果が6位となってしまった子どもは、分かりやすい「順位」の価値で自分を判断し、ダメだったときっと思っています。どうせ走っても誰にも勝てない、もう走りたくないと思っているかもしれません。僕らは、彼に対して、「順位」ではない価値で語るなければならないのです。彼が走った意味をきちんと伝える責任があるはずす。

ゴールした我が子に、なんと声をかけますか。ちょっとだけヒントを書きますね。競争で負けてしまいそうでも全力を出し切ったり、最後まで走りきるのは大変なことです。それは自分との勝負と言えるかもしれません。そして同時に、それをやり遂げることは、順位とは関係なく心地いい、とてもすっきりする経験でもあります。また、昨年のお子さんと比べて気づいたこともあるかもしれませんね。「1位で、すごかったね。」と声をかけるその前に、子どもの何に注目して、どこを認めたり褒めたりしようか、考えてみてほしいと思います。

教職員はもちろんのこと、保護者の皆様にもご協力いただいて、鶴小の運動会を、「上手下手」や「順位」という「社会的価値」だけではなく、子どもの頑張りやその子の伸びをみんなで認めていく場としたいと考えています。そうすることで、子ども1人1人が自分の頑張りや成長を感じ、よりよい自分に向かってくれると考えるからです。